

発行 豊頃町
〒089-5392
中川郡豊頃町茂岩本町125番地
☎015(574)2216

発行日 2014年10月1日
編集 豊頃町企画課広報情報係
豊頃町社会福祉協議会



今月の表紙

今月の表紙は、二宮神社祭りにむけて行われたしめ縄制作作業後の一コマです。完成したしめ縄は9月19日に無事奉納され、翌日の二宮神社祭りを迎えることができました。

役場などの連絡先

- ◆役場
☎(574)2211(代表)・FAX(574)3750(総務課)
- ◆各課等(ダイヤルイン)
 総務課☎(574)2211
 出納室☎(574)2212
 住民課☎(574)2213
 福祉課☎(574)2214
 施設課☎(574)2215
 企画課☎(574)2216
 産業課☎(574)2217
 農業委員会☎(574)2218
 議会事務局☎(574)2222
 教育委員会(教育課)☎(579)5801
 (図書館)☎(579)5802
- ◆支所・出先機関・町内関係機関
 大津支所☎(575)2021
 こどもプラザとよころ☎(574)3931
 給食センター☎(574)4600
 社会福祉協議会☎(574)3143
- ◆地域情報通信基盤施設の故障受付窓口
 NTT 東日本データセンター ☎0120(860)023
 [24時間365日受付]

ホームページ

豊頃町
<http://www.toyokoro.jp/>
豊頃町社会福祉協議会
<http://www.h3.dion.ne.jp/~toyo-sha/>

豊頃町の人口と世帯

8月31日現在(前月比)
住民基本台帳に基づく

人口	3,378人(-5)
男	1,627人(-1)
女	1,751人(-4)
世帯	1,521世帯(-1)

町内の交通事故

平成26年1月1日
～9月10日(前年比)

交通事故死	ゼロ239日
発生	4件(+1)
死者	1人(-1)
傷者	3人(0)

目次

CONTENTS

02 クローズアップ人

立野 里子さん

広報とよころ

- 04 特集「財政状況の公表」
- 06 Info-TOPICS ①「国民年金からのお知らせ」
- 07 Info-TOPICS ②「全国瞬時警報システム(Jアラート)自動起動装置導入に伴う防災行政無線による試験放送のお知らせ」
- 08 はるにれは見ていた「とよころ産業まつり」ほか
- 12 駐在だより「積み過ぎず ゆとりをもとう!トラッカー」ほか
豊頃医院だより「喘息の新しい検査」
- 13 健康だより「結核検診を受けましょう!」
- 14 みんなの図書館「秋が深まる10月『十三夜』って知ってますか? ほか」
- 16 Info-TOPICS ③「第21回全国報徳サミット豊頃町大会開催記念『報徳のおしえ』講演会」
- 17 町民文芸
我が家のアイドル
- 18 赤い羽根共同募金
- 20 INFORMATION ◎目次あり
主な施設の行事予定 ほか

裏 とよころカレンダー

告知 「今年かぎりの!長節湖秋あじまつり」
「第33回ふれあいフェスティバル」

第21回全国報徳サミット豊頃町大会開催記念 「報徳のおしえ」講演会

講演テーマ

『つなごう 新しい明日へ』

～二宮金次郎からのメッセージ～

10月27日(月)

開会18:30 受付18:00
える夢館はるにれホール



中桐 万里子
二宮尊徳七代目子孫

主催: 第21回 全国報徳サミット豊頃町大会実行委員会
後援: 十勝ふるさと市町村圏東ブロック実行委員会・豊頃町・豊頃町教育委員会
【お問合せ】 豊頃町教育委員会事務局 ☎(579)5801

※詳しくはP16をご覧ください。

日記のようなものですが 私が歩いてきた道です

toyokoro people



立野 里子さん

Profile たつの さとこ
大正8年12月18日生まれ
茂岩本町在住

教育委員会に寄贈された一冊の句集。長年茂岩俳句会で活躍されていた立野里子さんの作品を一冊にまとめたものです。94歳とは思えない元気で、インタビューにうかがった際には庭仕事をしていらつしやいました。とても謙虚な方で、「句集を息子が寄贈したことも実は知らなかったんです。自分がインタビュされるなんて思いもよらなかつたです。大きく載せないでください」とおっしゃっていました。「自分はまとめる気は全くなかつたんです」と話す立野さん。「子どもたちが『お母さんが作らないのなら私たちが作る。お母さんの俳句を自分の子どもたちにも読

故・竹田正二さんに突然俳句会に誘われたことがきっかけでした。全く経験もなく、自信もなかつたので一旦はお断りしたそうです。しかし、その後何度もお店に足を運び熱心に勧誘してくる竹田さんに根負けし、入会することとなりました。しかし俳句は全くの初心者。季語さえ知らない状態で、はじめは句会があるたびに「俳句ができなかつたらどうしよう」という不安で一杯だったという立野さん。会で行く年一回の旅行では、「ついた先での句会に備えて移動中のバスの中では俳句のことで頭がいっぱいでした」とまだ始めたばかりの頃

ませてあげたいから」と言うので、重い腰をあげました」と、ご家族の強い思いもあつて今回句集にまとめることとなりました。

立野さんが俳句を始めたのは昭和52年の年末ころ。立野さんの切り盛りしていた菓子屋さん『豊月』にお客さんとして足を運んでいた

の心境を感慨深そうに話してくれました。

それから30余年。会を退会された今でも暇を見つけては句を詠み続けています。

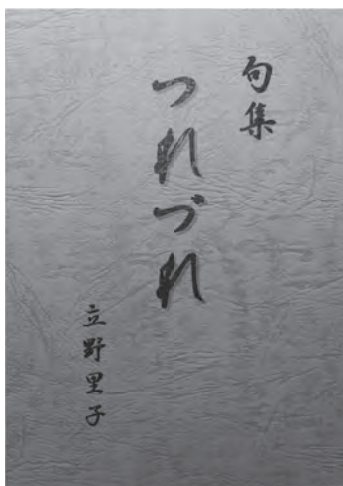
「こんなに長く続けられるとは当時は思ってもみなかつたです。竹田先生のおかげです。句会で旅行に行くことも多々ありましたが、その当時はお店を夫と2人で切り盛りしていたので、今考えるところでも苦労をかけたと思います。何も言わずに行かせてくれていた夫にはとても感謝しています」。

約30年間、忙しいお店の仕事の傍ら書き溜めた俳句でできた句集。

「日記のようなものですね。読み返すと、句を詠んだ当時のことを思い出します」。

立野さんとご家族の思い出が詰まった句集は立野さんが歩んできた人生そのものです。

句集



タイトルの『*つれづれ』の由来をうかがうと、「つれづれに作ったようなものだから」とあくまでも謙虚な立野さんでした。
※「やるべき事がなくて、手持ち無沙汰なさま」